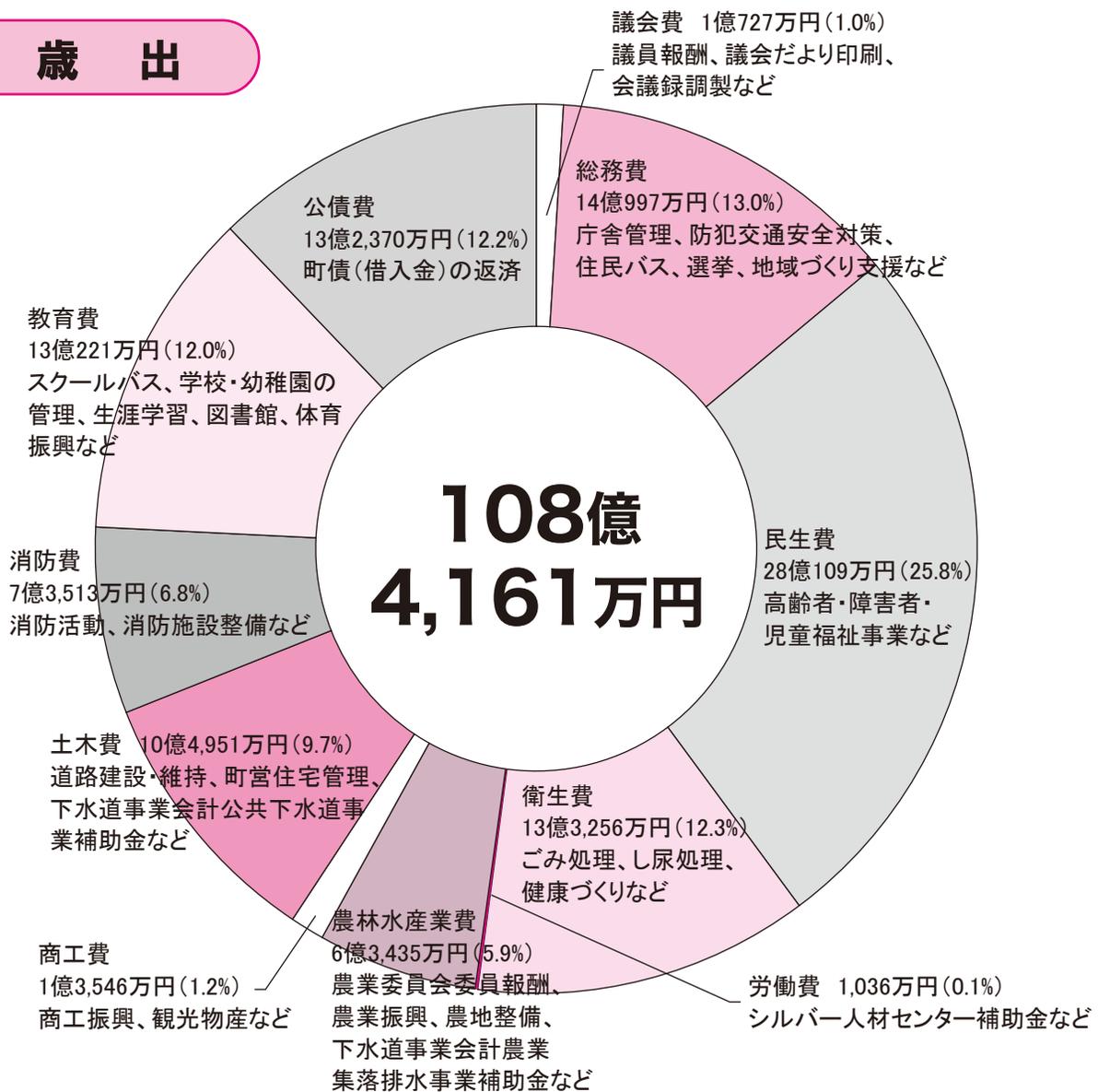


# 平成30年度 決算の概要

平成30年度の一般会計と各種特別会計の決算が、美里町議会 9 月会議において原案どおり承認されました。平成30年度の決算の概要についてお知らせします。

## 一般会計の決算

### 歳出



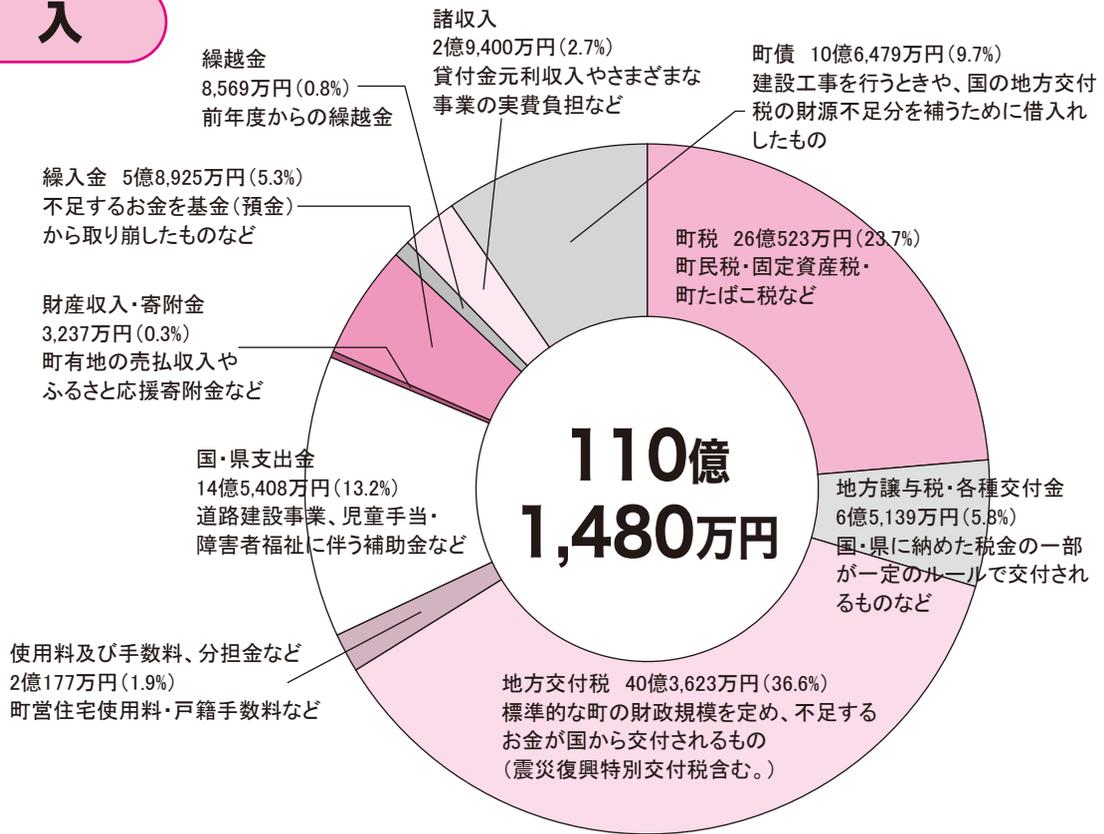
### 歳入歳出とも前年度より大幅な増加

平成30年度の一般会計の歳入決算額は110億1,480万円で、歳出決算額は108億4,161万円となりました。前年度と比較して歳入では9億2,475万円の増、歳出では8億9,326万円の増となりました。

### 広域行政や子育て支援の充実

平成30年度は、建設事業費で小牛田小学校付近のJR陸羽東線彫堂踏切拡幅工事を実施したほか、大崎地域広域行政事務組合の新消防本部庁舎および新リサイクルセンターの整備に必要なお金を負担しました。また、働きながら子育てする家族を支援するため、民間の地域型保育施設の整備費用を補助し、子どもの受入れ先を拡充することで待機児童の減少に努めました。

# 歳入



歳入のうち町税は 26 億 523 万円で、前年度と比較して 239 万円の微増となりました。地方交付税では、新リサイクルセンター建設の財源として、震災復興特別交付税が増加しています。

## 平成 30 年度決算の実質収支額

歳入 110 億 1,480 万円－歳出 108 億 4,161 万円－繰越財源 1,746 万円＝1 億 5,573 万円

歳入から、歳出と繰越財源（次年度へ繰り越しすべき財源）を差し引いた実質収支額は、1 億 5,573 万円となり、そのうち 1 億円は、後年度に備えて財政調整基金に積み立てました。

## 特別会計の決算

各特別会計の歳出決算額を前年度と比較すると、国民健康保険特別会計で 16.6%の減、後期高齢者医療特別会計で 2.2%の増、介護保険特別会計で 2.4%の増となりました。

区 分	歳 入	歳 出	歳入歳出差引額
国民健康保険特別会計	28 億 680 万円	27 億 6,318 万円	4,362 万円
後期高齢者医療特別会計	2 億 8,595 万円	2 億 8,560 万円	35 万円
介護保険特別会計	24 億 2,440 万円	23 億 6,109 万円	6,331 万円

## 公営企業会計の決算

◇水道事業会計の決算状況

【収益的収支】	収入額	7 億 4,473 万円（消費税等抜き 6 億 9,326 万円）
	支出額	7 億 1,453 万円（消費税等抜き 6 億 6,581 万円）
	差引額	消費税等抜きで 2,745 万円の黒字
【資本的収支】	収入額	4,513 万円
	支出額	2 億 5,218 万円
	差引額	2 億 705 万円の不足

差引不足額については、当年度分損益勘定留保資金、当年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額、繰越工事資金、減債積立金で補てんしました。

### ◇病院事業会計の決算状況

【収益的収支】 収入額 6億8,829万円（消費税等抜き6億8,446万円）  
 支出額 6億8,297万円（消費税等抜き6億7,960万円）  
 差引額 消費税等抜きで486万円の黒字  
 累積欠損金の額は、4億9,669万円となりました。

【資本的収支】 収入額 8,588万円  
 支出額 1億2,851万円  
 差引額 4,263万円の不足

差引不足額については、過年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

### ◇下水道事業会計の決算状況

【収益的収支】 収入額 9億6,457万円（消費税等抜き9億3,772万円）  
 支出額 9億4,069万円（消費税等抜き9億2,592万円）  
 差引額 消費税等抜きで1,180万円の黒字

【資本的収支】 収入額 9億2,792万円  
 支出額 10億3,645万円  
 差引額 1億853万円の不足

前年度同意済企業債1億5,080万円および翌年度へ繰り越される繰越工事資金1億2,636万円を除いた差引不足額3億8,569万円については、過年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額、当年度分消費税および地方消費税資本的収支調整額、繰越工事資金、過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補てんしましたが、なお不足する額については、平成30年度同意済企業債の未発行分で措置することとしています。

### 町債の借入額・償還額・年度末残高

区 分	平成29年度末残高	平成30年度借入額	平成30年度元金償還額	平成30年度末残高
一般会計	111億9,594万円	10億6,478万円	12億4,657万円	110億1,415万円
水道事業会計	35億5,127万円	2,290万円	2億308万円	33億7,109万円
病院事業会計	5億9,138万円	2,800万円	9,771万円	5億2,167万円
下水道事業会計	69億415万円	6億3,830万円	5億6,911万円	69億7,334万円
合計	222億4,274万円	17億5,398万円	21億1,647万円	218億8,025万円

一般会計の平成30年度末の町債残高は、平成29年度末残高に比べて1億8,179万円の減額となり、110億1,415万円となりました。このうち、地方財源の不足に対応するため、従来の交付税に代えて発行される臨時財政対策債の占める割合は46.3%となり前年度と比べて0.5ポイント増加しています。町全体の町債残高は、前年度と比べて3億6,249万円の減額となりました。

### 基金の年度末現在高・増減額

区 分	平成29年度末の現在高 (A)	平成30年度末の現在高 (B)	増減額 (B) - (A)
一般会計 財政調整基金	13億4,676万円	11億984万円	△2億3,692万円
一般会計 減債基金	2億4,882万円	2億4,819万円	△63万円
一般会計 その他の基金	21億1,364万円	17億1,356万円	△4億8万円
国民健康保険特別会計 財政調整基金・出産費資金 貸付事業基金	6億1,829万円	9億2,615万円	3億786万円
介護保険特別会計 介護給付費準備基金	2億1,579万円	2億5,081万円	3,502万円
合計	45億4,330万円	42億4,855万円	△2億9,475万円

国民健康保険特別会計と介護保険特別会計の基金現在高は増額となりましたが、一般会計の基金現在高は減額となり、基金全体で2億9,475万円の減額となりました。

## 地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく 健全化判断比率及び資金不足比率について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律は、地方公共団体の財政の健全性に関する比率の公表の制度を設け、当該比率に応じて健全化のための計画策定や行財政上の措置が講ぜられることを目的に制定されたものです。この法律の規定により、美里町の平成 30 年度の決算に基づく健全化判断比率および資金不足比率の算定結果についてお知らせいたします。

### 1 健全化判断比率

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度対増減	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	—	14.07%	20.0%
連結実質赤字比率	—	—	—	19.07%	30.0%
実質公債費比率	9.5%	8.9%	△0.6	25.0 %	35.0%
将来負担比率	47.4%	40.1%	△7.3	350.0 %	—

#### ◇実質赤字比率

一般会計が赤字か黒字か判断する比率です。赤字のときのみ数値が記載されます。過去のいずれにおいても黒字となり赤字はありません。

#### ◇連結実質赤字比率

公営企業会計を含む全会計の合計が赤字か黒字か判断する比率です。赤字のときのみ数値が記載されます。過去のいずれにおいても黒字となり赤字はありません。

#### ◇実質公債費比率

町がその年度に返済すべき公債費等の金額が、町の標準的な収入金額に対してどのくらいの比率になっているのかを示す数値です。本町は年々減少傾向にあります(25%超で黄信号、35%超で赤信号)。

#### ◇将来負担比率

町が将来にわたって抱える負担すべき金額(町債の借入れやリース契約などで支払いが確定している金額)が、町の標準的な収入金額に対してどのくらいの比率になっているのかを示す数値です。(350%超で赤信号)。

### 2 資金不足比率

公営企業会計ごとの資金不足額の事業規模に対する割合です。公営企業の資金不足を公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示す指標ともいえます。

本町の水道事業会計、病院事業会計および下水道事業会計すべてにおいて資金不足額はありません。

### 都市計画税の使い道 (平成 30 年度都市計画税 9,493 万円)

町では、公園や街路、下水道など、都市計画事業に使用する目的で都市計画税を徴収しています。平成 30 年度は 9,493 万円を徴収し、都市計画事業 2 億 2,936 万円の財源の一部として使用しました。不足分は一般財源から支出しています。

都市計画事業	決算額
下水道事業会計への補助金 (これまで整備した公共下水道整備事業に係る町債償還金)	1 億 9,542 万円
これまで整備した都市計画事業に係る町債償還金	3,394 万円
合計	2 億 2,936 万円